

國學院大學學術情報リポジトリ

創刊の辞

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 井上, 順孝, Inoue, Nobutaka メールアドレス: 所属:
URL	https://k-rain.repo.nii.ac.jp/records/1764

創刊の辞

日本文化研究所・所長 井上順孝

國學院大學日本文化研究所は、平成19(2007)年度から國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所となった。この間の経緯についてはすでに『國學院大學日本文化研究所紀要』100輯の巻頭にも述べておいたが、主として従来の日本文化研究所の総合プロジェクト部分が研究開発推進機構日本文化研究所で継承されることとなったのである。すなわち「デジタル・ミュージアムの構築と展開」及び「近世国学者の靈魂觀をめぐる思想と行動の研究」のプロジェクトである。

「デジタル・ミュージアムの構築と展開」のプロジェクトは、英文オンライン事典であるE O S (Encyclopedia of Shinto)をはじめとする神道・日本文化関連の基本的資料・データのデジタル化を推進するとともに、日本文化研究所のみならず、機構のすべての部署のウェブ上での発信、さらに國學院大學図書館所蔵の貴重本や資料類のウェブ上での情報発信の体系的推進を行なう。研究開発推進機構が置かれている建物は学術メディアセンター (Academic Media Center 略称A M C) と呼ばれているが、ここは國學院大學の研究センターであり、情報センターでもある。機構における研究が学内外の研究推進に貢献し、國學院大學の教育にも寄与し、さらに社会的貢献も果たせるようにと考えたときに、情報発信は重要な役割をもつことになる。

「近世国学の靈魂觀をめぐるテキストと実践の研究—靈祭・靈社・神葬祭—」(平成20年度より改称)のプロジェクトは、國學院大學の特色の1つである国学研究を深めていくためのプロジェクトである。これまでの日本文化研究所の学的蓄積の上にさらなる展開を目指すものである。

旧日本文化研究所時代と比べると人員は縮小されたが、それでも平成20年度は共同研究員を含めて30名近いスタッフを擁する。上記のプロジェクト遂行に一致協力するとともに、それぞれの研究者の個性ある研究も展開されている。

この年報はこうした日本文化研究所の研究成果を公表することを主目的として創刊された。年1冊の刊行であるが、前年度の研究成果及び当該年度の研究計画が概観できるような構成となっている。またスタッフが個人的に手がけている研究を紹介する意味もこめて、研究ノートの類も掲載していく。創刊号では、スタッフ紹介も行っている。

本誌に紹介するスタッフの研究分野を眺めると、かなり多岐にわたることが分かる。外国人スタッフも7名いる。情報機器の扱いに熟練した人もいる。E O Sの他、神道関連の最近の論文を日本語から外国語へ、また外国語から日本語へと翻訳してオンラインで紹介するなど、各種の有用なコンテンツも蓄積されていくことになる。同時に、国学研究の新たな地平を開こうとしている研究者も集まっており、重厚な研究成果が示されることとなろう。

以上のような目的で新しく刊行される本誌をこれから見守っていただきたい。

平成20年9月